

鹿沼市議会産業建設常任委員会行政視察報告書

日 時 令和 7 年 10 月 20 日(月)～22 日(水)

場 所 北海道登別市

北海道白老町

(ウポポイ民族共生象徴空間)

北海道千歳市

(道の駅サーモンパーク千歳)

視察者 鹿沼市議会産業建設常任委員会

委員長 横尾 武男

副委員長 橋本 勝浩

委 員 増渕 靖弘

委 員 館野 裕昭

委 員 鈴木 毅

委 員 梶原 隆

委 員 藤田 義昭

委 員 船生 雅秀

【背 景】

本視察は「水辺空間や交流拠点等の整備を通じたまちづくり」をテーマに、地域資源を活かした魅力的な都市空間の形成や、住民・観光客が集い交流する場の創出について先進的な取組を学ぶことを目的とする。近年、全国各地で河川や湖沼などの水辺空間を活用した賑わい創出や、公共施設・商業施設を組み合わせた交流拠点の整備が進められている。こうした取組は、地域の景観向上や観光振興、さらには地域コミュニティの活性化にも寄与している。本視察では、行政・民間・地域住民が連携して進める整備手法や維持管理体制、事業効

果の検証などを学び、今後の鹿沼市における魅力あるまちづくり施策の検討に資することを目指す。

①**登別地獄谷遊歩道の整備**を通じて、自然景観を活かした観光振興と環境保全の両立について学ぶことを目的とする。地獄谷は、活火山の噴気や熱湯が湧き出る迫力ある景観が特徴で、国内外から多くの観光客が訪れる北海道を代表する観光地である。視察では、自然環境を損なうことなく安全で快適な観光動線を確保する工夫や、案内サイン・展望施設などの整備手法、維持管理体制を調査し、鹿沼市における観光資源の活用や魅力あるまちづくりに資する知見を得たいと考えている。

②**ウポポイ（民族共生象徴空間）**における先住民族アイヌの歴史・文化の継承と、多様な文化が共生する社会の実現に向けた取組を学ぶことを目的とする。ウポポイは、国立民族共生公園や国立アイヌ民族博物館を中心に、体験学習や文化発信を通じて理解促進を図る拠点である。視察では、展示や運営の工夫、地域連携による観光振興・教育活動の取組などを調査し、多文化共生や地域資源を活かした魅力あるまちづくりへの活用を検討したい。

③**道の駅サーモンパーク千歳**における地域資源を活用した観光振興と交流拠点としての機能強化の取組を学ぶことを目的とする。同施設は、千歳川の清流とサケのまちとしての特性を生かし、観光案内や物産販売に加え、交流・学習・憩いの場として多様な機能を備えている。視察では、民間活力の導入や地

域との連携による運営手法、観光客の滞在促進策、施設整備の工夫などを調査し、鹿沼市における道の駅を核とした地域活性化施策の参考としたい。

【登別地獄谷遊歩道の整備について（行政視察①）】

【視察概要】

日時 令和 7 年 10 月 20 日(月) 14 時 00 から 15 時 30 分

場所 北海道登別市役所

対応 登別市議会 議長 千田 文孝 様

登別市観光経済部 総括主幹 菅野 淳 様

登別市観光経済部 主査 鳥海 秀充 様

【調査内容】

質問 1 登別地獄谷遊歩道の維持管理について。

回答 1 市観光課と観光協会が連携し、定期的な点検・補修を実施している。特に木道や橋梁部分は腐食・劣化が早い
ため、年 2 回以上の安全確認を行い、必要に応じて修繕を実施している。冬期は積雪・凍結対策として通行規制を設け、安全確保を最優先にしている。



質問 2 観光客の増加に伴う自然環境への影響について。

回答 2 遊歩道以外への立ち入りを防ぐために柵や案内板を整備し、植生保護を行っている。また、観光客向けに自然保護の重要性を伝える解説板やガイドブックを充実させ、持続可能な観光利用を推進している。環境負荷軽減のため、ゴミの持ち帰りを徹底する啓発も実施している。

質問 3 火山活動や温泉ガスの影響による危険性への備えについて。

回答 3 北海道大学など研究機関と連携し、火山活動や有毒ガスのモニタリングを継続している。異常値が検出された場合は、速やかに遊歩道を閉鎖し観光客を避難誘導している。緊急時の避難経路や誘導看板も整備済みで、観光事業者とも定期的に避難訓練を実施している。

質問 4 遊歩道のバリアフリー化はどのように取り組んでいるか。

回答 4 地獄谷の地形上、完全なバリアフリー化は難しいものの、入口付近には段差を少なくしたエリアや手すりを設置している。また、車椅子や高齢者が利用できる短距離散策路を整備し、誰もが楽しめるよう工夫している。将来的には AR 技術を用いたバーチャル散策の導入も検討したい。

質問 5 観光客の安全・マナー向上のための取り組みについて。

回答 5 多言語対応の案内板や注意喚起看板を設置し、SNS や公式サイトでもルールを周知している。特に立ち入り禁止区域への進入防止、野生動物への餌付け禁止、喫煙禁止などを強調しており、観光ボランティアガイドも巡回し、マナー向上に寄与している。

質問 6 登別温泉街や地域経済との連携はどのように行っているか。

回答 6 地獄谷散策は温泉宿泊客の主要な観光コンテンツであるため、宿泊施設と連携した散策ツアーや夜間ライトアップイベントを開催している。また、地元商店街と協力し、散策後に地域特産品を楽しめる仕組みを整えている。地域全体の回遊性を高めることで経済波及効果を図っている。

質問 7 今後の整備計画や課題はどのように考えているか。

回答 7 今後は老朽化した遊歩道の更新、デジタル技術を活用した観光案内システムの導入、自然環境の更なる保全が課題。また、観光客増加に伴う混雑対策や駐車場整備、地域住民への観光利益の還元も重要なテーマと考えている。持続可能な観光地として発展するために、官民連携で施策を進めたい。

【まとめ】

登別地獄谷遊歩道の視察では、電気自動車「グリーンスローモビリティ」の活用など、自然景観を最大限に生かしつつ、安全で快適な観光環境を整備する工夫を学んだ。地形や火山活動などの自然条件を踏まえた遊歩道の設計、バリアフリー化への配慮、案内表示や照明設備など、観光客目線の整備が印象的であった。ま



た、地域や観光事業者との連携により、環境保全と観光振興を両立させている点は、鹿沼市における観光資源の活用や持続可能な観光地整備を進めるうえで

大いに参考となった。特にインバウンド効果を踏まえた費用対効果の視点も大切だと思われる。

【ウポポイ（民族共生象徴空間）（行政視察②）】

【視察概要】

日時 令和7年10月21日(火) 14時00から15時30分

場所 北海道白老町（ウポポイ民族共生象徴空間）

対応 公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部

総務課長 中田 智雄 様 ほか職員

【調査内容】

質問1 ウポポイ設立の目的について。

回答1 先住民族アイヌの歴史・文化を継承・発信し、多様性を尊重する共生社会の理念を示すことが目的。教育・観光・交流の拠点として機能する。

質問2 主な施設とその役割について。

回答2 国立アイヌ民族博物館（展示・研究）、国立民族共生公園（体験・交流）、伝統的コタン（文化実演）で構成され、学びと体験を両立させている。



質問3 来館者数や観光効果について。

回答3 開業当初は年間 100 万人を目標に掲げ、コロナ禍で減少したが回復傾向。地域観光資源との連携により道央～道南エリア全体の集客に寄与している。なお現在の来館者数は年間 70 万人。

質問4 アイヌ文化伝承への具体的取り組みについて。

回答4 歌舞・工芸・食文化体験を通じた伝承、人材育成プログラムの実施、若手アイヌ文化担い手の雇用や研修制度を整備。（実際に館内を説明して頂いた職員の先祖はアイヌの方）

質問5 地域経済への波及効果について。

回答5 近隣宿泊施設や飲食業の利用増、工芸品販売や地元食材を活用したメニュー開発に波及。観光ルート形成で白老町全体の活性化を促進。

質問6 行政としての課題は？

回答6 安定的な運営財源の確保、文化継承と観光商業化のバランス、来訪者への分かりやすい情報発信（多言語対応や ICT 活用）が課題。

質問7 今後の展望について。

回答7 修学旅行や国際交流プログラムの拡充、持続可能な運営体制づくり、地域連携による「学びと観光」の二重の価値を発展させる計画。

【まとめ】

ウポポイ（民族共生象徴空間）の視察では、アイヌ文化の正しい理解と継承に向けた展示・体験型学習の工夫や、来館者に分かりやすく伝える展示演出が

印象的であった。また、地域住民や教育機関、観光事業者との連携による文化発信や観光振興の取組は、多文化共生の推進と地域活性化を両立する好事例であると感じた。こうした取組は、地域の歴史や文化を尊重し、多様性を生かしたまちづくりを進めるうえで大いに参考となった。

【道の駅サーモンパーク千歳（行政視察③）】

【視察概要】

日時 令和7年10月22日(水) 9時00から10時30分

場所 北海道千歳市（道の駅サーモンパーク千歳）

対応 千歳市観光スポーツ部観光課観光企画係長 神子 誠人 様

千歳市議会事務局総務課調査係長 伊藤 謙太 様

道の駅サーモンパーク千歳 駅長 渡邊 真 様

【調査内容】

質問1 サーモンパークの整備目的について。

回答1 千歳川に遡上するサケを核とした自然学習・環境教育の拠点として整備され、市民や観光客にサケや水環境への理解を深めてもらうこと、また観光振興と地域活性化を図ることが目的。



質問 2 年間の来館者数はどの程度か。

回答 3 道の駅と水族館を含め年間で約 100 万人が訪れており、国内外からの観光客や修学旅行生も多く来館している。

質問 3 運営主体と財源はどのようなになっているか。

回答 3 市が施設を保有し、指定管理者制度により運営されている。財源は市の予算に加え、入館料や物販収益、イベント収入で賄われている。

質問 4 教育的活用はどのように行われていますか。

回答 4 学校の環境学習や修学旅行プログラムで利用されており、サケの生態観察や稚魚放流体験を通じて環境教育に活用されている。

質問 5 観光振興への効果について。

回答 5 千歳空港に近接する立地を活かし、国内外観光客が訪れることで地域の宿泊・飲食・土産品販売の活性化に貢献しているとの認識。

質問 6 施設維持や老朽化への対応はどうしているのか。

回答 6 長寿命化計画に基づき段階的に改修を実施しており、展示設備の更新やバリアフリー化も進めている。

質問 7 今後の課題と展望について。

回答 7 サケ資源の減少や気候変動への対応が課題。デジタル技術を活用した展示や国際観光客向け多言語対応を強化し、持続可能な観光・学習拠点として発展を目指していきたい。

【まとめ】

道の駅サーモンパーク千歳の視察では、地域資源を活かした観光振興と交流拠点づくりの先進的な取組を学んだ。サケをテーマにした展示や体験施設、地元産品の販売、飲食スペースなど、多様な機能を備えることで、観光客だけでなく地域住民にも親しまれる施設となっていた。また、民間活力の導入や地域との連



携による運営体制が効果的であり、地域経済の活性化に寄与していた点は、鹿沼市の道の駅整備・運営の参考として有益であった。

【行政視察総括】

今回の視察では、「水辺空間や交流拠点等の整備を通じたまちづくり」に関する先進的な事例を通じて、地域資源を活かした魅力的な都市空間の形成と、住民や観光客の交流促進に向けた多様な取組を学ぶことができた。各地では、自然環境や歴史・文化を背景とした整備が進められ、単なる観光施設としてではなく、地域のにぎわいや誇りを生み出す拠点として機能していたことが印象的であった。特に行政・民間・住民が連携し、持続的な運営と地域経済の循環を実現している点は、鹿沼市のまちづくりを進めるうえで重要な示唆を与える

ものであり、今後の施策検討に大いに役立つ5つの視察結果を整理し、今回の行政視察の成果としたい。

① 自然環境や水辺空間を活かした景観整備により、地域の魅力を高める取組が効果的であった。

② 観光、学習、休憩、イベントなど、多目的に利用できる施設整備が地域活性化に寄与していた。

③ 行政と民間事業者、地域住民が協働して整備・運営を行う体制が成果を上げていた。

④ 自然環境に配慮した設計や維持管理により、持続可能な観光・交流空間が形成されていた。

⑤ 観光客の滞在促進や地元製品の販売強化などにより、地域経済の循環と雇用創出に貢献していた。